

個人山行、道南砂原岳（1113・2m）

施行日：平成29年6月24日（土）

参加者：リーダー澤田、サブリーダー藤木（晴）・河村、渡邊、西田（芳）、佐藤、西田（昌）、笹山、太田、津川、近藤・・・11名

行程：駐車場発；8時14分、西丸山分岐；9時30分、789m尾根肩；10時25分、岩場取り付け（約900m）、砂原岳（1113・2m）山頂；12時08分
岩場の陰で昼食；12時15分～12時45分
ロープ張り岩場；13時10分、馬の背肩；13時37分、西丸山分岐；14時12分、四阿14時30分、駐車場；15時14分

早朝5時30分に11名が伊達に集合、車3台に分乗、高速を利用、落部ICで降り、森町を経由し、旧砂原町から望洋の森公園駐車場に向かう。

十数台が駐車可能な舗装の立派な駐車場に7時50分到着、登山支度を整え、準備体操後、8時14分にリーダーを先頭に出発。



望洋の森公園は廃止になったそうだが気持ちの良い箇所だ。大きな林道を横切り、登山道に取り付く。



広い登山道が尾根道を緩く登る、最初はカラマツの植林地を縫って、高度を稼ぐ、後半は白樺、檜、ハンノキ等の林相に代わる。タニウツギ、ベニハナイチヤソウの群生が見られた。西丸山までの距離看板あり。



林内の道は日蔭で涼しい、快適に高度を稼ぐ。

西丸山（525m）が見えて来た。

9時30分分岐に到着、休憩を採る。



これから辿る稜線と砂原だけ北面峰。



分岐から南に延びる雑草を掻き分け、火山砂礫を苦労して789m尾根肩に10時25分到着。此处でヘルメット、ハーネス等を着用、岩場登攀に備える。

藤木・渡邊の両氏がロープセッチングの為、先行する。前方に駒ヶ岳の剣が峰が佇立する。

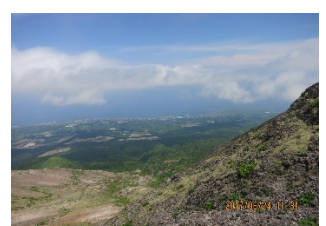


アンカー用のハーケン、ピンを打ち込みロープの安全確保をしてくれ、感謝する。

岩場はロープにプルーシックを施し、1名ずつ登攀する為、時間を要した。



岩場の上部からの眺望がスバラシク、眼下に火山灰の尾根を歩くが、遠い。砂原の漁港と街並みが望めた。



全員の登攀完了後、ロープはそのままに、浮石の多

い岩稜砂礫のみちを斜状登攀する、全員落石させないよう細心の足運びをする。9合目の標柱だ。



溶岩岩頭の向こうに砂原岳の頂上が顔お出した、まだ遠いね。稜線に出ると南側下に大火口原と剣が峰が望め規模の雄大さに圧倒されしばし佇む。



岩稜の火口壁を越え東進するとなだらかな火山灰の膨らみの頂上が見えて来た。

12時ジャスト、砂原岳(1113m)頂上に立つ。



登頂の喜びを笑顔で、ハイ“おめでとう”。



頂上は風が当たるので早々に別れ、溶岩壁の陰で昼食を摂る。(12時15分～12時45分)

40数年前火口原の噴気孔そばを通り砂原岳に登頂を思い出し、感慨に耽る。



下山は細心の注意が必要、浮石の蹴り出しで落石、転倒滑落の危険性が大、皆さん慎重に下る。

13時10分、ロープ張り岩場に到着、足場は十分にあり、三点支持で慎重に下降する。



13時37分、馬背の肩(787m)に帰到ヘルメット、ハーネス等の装備を外す。

ロープ張りのセッチングをされた藤木、渡邊、リーダーに感謝する。

砂礫の道を慎重に下り、草藪を掻き分け14時12分西山分岐に到着、小休憩を採る。

四阿に14時30分、大休止。



以前はここから旧道があった。

木陰の道は涼しく快適に下山、15時14分駐車場に全員無事帰着、有難うございました。

濁川温泉に入浴、疲れを癒す、伊達に19時前に帰着、解散する。天候に恵まれ、初めてのコースよりの砂原岳登山で感慨も深く、リーダー始め、参加者に感謝します。満足の日でした。有難う。

記：I K